

青年協ニュース

全国の取組みやチラシ・ニュース等をお寄せください！

日本医労連 FAX：03-3875-6270 か seinen@irouren.or.jp まで

*このニュースは各県と各県青年部の代表(分かる範囲で)に送っています。



青年春闘一言カードの取組み状況追加報告

「青年の一言カード」は、現在事務局にデータ提供・報告が来ているのは、全労災、国共病組、北海道、岩手、山形、埼玉、山梨、長野、大阪、広島、香川から来ています。全体の報告もしなければなりません、今号では山形の取組みを紹介します。



「休み取らせて！、人ふやして！」

820の声を集約 山形県青年部

山形県医労連青年委員会は、日本医労連青年協の方針にもとづいて、青年組合員の「一言カード」運動に取り組みました。

3月16日現在、10単組820枚(民間労組7単組中6組合で、48.4%、公務員労組4単組51.6%)を集約しました。集計は「全体」と「民間・公務員別」「看護職・看護職以外」の角度から行いました。

集計結果の特徴は、看護職が全体の7割以上を占めました。看護現場の大変な実態が反映され、要求は「休日の保障、有給休暇を求める要求(22.8%)」「人手不足を訴え、増員を求める要求(21.4%)」の2項目が、それぞれ2割を超え、突出しています。

看護職以外では、「賃金引き上げ・手当」についての要求が18.1%で第1位、「休み取得」(16.7%)、「人手不足・増員」(15.0%)の3つが大部分を占めています。また看護職以外では、分類不能な様々な声(26.9%)があったのも特徴でした。

今後の取組みとして、単組では春闘要求に「増員」を盛り込んだり、青年の切実な声を組合ニュースなどで毎日紹介したりしています。県の青年委員会としても、4月に実施する街頭宣伝で、「看護師増員」の署名を集める計画を立てて準備中です。

(山形県医労連・加藤聡)

最低賃金じゃ暮らせない〜(;_ ;)

北海道、「最賃ヒキアゲルンジャー2」CMが大好評 埼玉では、TV出演(生出演など) 3回も!

全労連青年部では、最低賃金の大幅引き上げを求めて、最低賃金の低さを告発する「最低賃金生活体験」運動を提起しています。各県医労連青年部でも県労連青年部に結集して、取り組んでいます。

北海道医労連では、3月1日～31日の期間、道労連青年協による最低賃金体験「ヒキアゲルンジャー2」が取り組まれました!

道医労連からは、スタート時、4名がヒキアゲルンジャーとなりチャレンジ。今回は、缶バッジ・ステッカーなどのグッズもつくり、4プラ前のメガビジョンにもCMを流したりと、昨年以上にマスコミにも取り上げられ、凄まじい勢いとなっています! 3月

1日のテレビを見た人たちからは、翌日、道労連の事務所に問い合わせの電話が殺到。道労連事務局からは「仕事にならないよ〜」と嬉しい悲鳴も聞こえるほどでした。読売新聞、HBCテレビ、STVラジオなどで紹介されたこともあり、「ヒキアゲルンジャーって何ですか?」とか、「私もヒキアゲルンジャーになりたいです!」と2名の申し込みなどもありました。

神奈川県医労連は、3月1日から10日間、最低賃金生活体験を行いました。神奈川県の最低時給708円で10日間、本当に生活できるのか6名でチャレンジしました。多くの参加者は、早いうちに撃沈。順調に最賃体験をしたけれど1日200円の食生活で生野菜を取れず口内炎ができた人、誘いを断れずオーバーしてしまった人など、最賃自体が既に撃沈した内容であることがわかりました。中には、電話代、プロバイダー料、保険料などの必要経費で残金がわずかになってしまうなど、最賃生活の厳しさが明らかになりました。

埼玉県医労連は、埼労連青年部の最低賃金体験(最低時給679円)に参加しました。3月1日から31日までの1ヶ月間、最低時給で1日8時間、22日働いた119,504円から税金、家賃(標準生計費を基礎に32,000円と低めで統一した)などを引いた額70,000円(更に携帯、諸固定支出を引く)で一ヶ月生活できるのか体験し、その状況はテレビ埼玉の番組で3月~4月の3回の放送で紹介され、青年部の組合員も登場しています。青年委員の吉田直弘さんも、携帯電話からですが、「生出演」しました。

(北海道医労連・全国アクトニュース、および関信ブロックニュースより)



北海道労連最賃グッズ